

平成29年7月24日  
東部農林振興センター松江農業普及部安来支所

標 題	松江・安来地域大豆指導連絡調整会議を開催
-----	----------------------

(ダイジェスト)

7月4日に松江・安来地域の大豆指導関係者及び農技C担当者が集まって「松江・安来地域大豆指導連絡調整会議」を開催した。指導活動の現状と課題、農技Cの現地調査・試験研究状況などの情報を共有し、課題と対応方向を整理するとともに、今年産では両地域で指導・生育状況等の情報を共有して現地指導を行うことになった。

松江・安来地域では大型集落営農法人等が大面積の大豆栽培に取り組んでおり、本年産では主な6組織（5法人・1任意組合）合計で113.2haの栽培を予定しているが、気象条件等の影響によって収量・品質が安定していないのが課題となっている。

今回、松江・安来地域で大豆の生産指導に当たっている関係者（JAくにびき・やすぎ両地区本部、NOSA I 東部、松江・安来両普及部）が集まって、両地域の大豆栽培の現状と課題、対策等について検討する機会を設けることとした。

また、大豆については、農水省の委託プロジェクト研究「水田作及び畑作における収益力向上のための技術開発」で多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発を進めており（H27～31）、その一環で昨年度は農技Cが安来市内3組織6ほ場での実態調査を実施したことから、品種試験等の結果もあわせて、農技C（農産技術普及課、作物科、土壤環境科）の担当者から情報提供していただいた。

検討の中では、①作型（播種時期の遅いケース）、②排水対策（FOEASの効果的運用、明渠・簡易暗渠等の施工）、③除草対策（効果的除草体系の確立、難防除雑草対策）、④適期防除、などが課題としてあげられた他、全国調査の中では、有機物の補給が不十分な状態での田畑輪換の繰り返しによ地力低下、転作率の上昇と大豆作付頻度の増加に伴う連作障害の2つが阻害要因として指摘されている。

本年産については、松江・安来両地区の関係者で指導・生育状況の情報を共有して現地指導に活用することを申し合わせるとともに、次年産に向けては、上記の課題の対策を整理し、現地での実証栽培を法人等へ提案することとした。

44	担当者	安来支所	高田 光	TEL0854-22-2341
----	-----	------	------	-----------------